



## 診察室から 脳梗塞概要

理事長 福田 雄高

今回は脳梗塞についてわかりやすく説明できればと思います。

なんらかの理由で血管が細くなったり、閉塞することで、その先にある脳や、心臓の筋肉に血液が供給されなくなり、酸素や栄養が行き届かなくなることで、局所的に細胞組織が壊死に陥ります。それが脳に及ぶと脳梗塞、心臓の筋肉に及ぶと心筋梗塞といいます。また詰まりかけた状態を、脳では一過性脳虚血発作、心臓では狭心症といいます。脳では静脈が詰まることもありますが、主に動脈が詰まることが多いです。一概に脳梗塞といっても大きく3種類の原因、タイプがあります。

- 1、脳の細い動脈が詰まるタイプ（穿通枝梗塞、ラクナ梗塞ともいいます。ラクナとは小さな窪みという意味です。）
- 2、脳の大きな動脈が詰まるタイプ（アテローム血栓性ともいいます。）  
大きな動脈と言っても、その径は1.0-2.0mm程度とかなり細いです。細くならない様に、閉塞しない様に丁寧に管理しなければならないものでしょう。
- 3、主に心房細動という不整脈が原因となるタイプ（心原性塞栓症ともいいます。）  
心房細動という不整脈があると、心臓が震えることで、心臓の中に血液の固まり（血栓）ができます。心臓から飛び出た血栓がまず向かう場所は、大動脈、脳の動脈です。徐々に詰まっていく、動脈硬化が原因のラクナ、アテローム血栓性と比較して、急に詰まってしまうことで、症状は突然で、より重篤になる可能性があります。また頸動脈（首の動脈）にプラーク（コレステロールなどの脂肪からなる塊）があることで、不安定なプラークが破れて、その先の動脈に詰まってしまうタイプもあります。

またこれからの時期は、特に血行力学性といって、脱水に伴って、脳灌流圧が低下することで、思いがけなく脳梗塞に至る場合もあります。その他にも動脈が裂けることによる解離や、大きな動脈が細くなるもやもや病をはじめ、様々な原因による脳梗塞を認めますが、まず重要なのは、3つの原因、タイプです。

脳梗塞は、脳腫瘍、くも膜下出血と違って、主に生活習慣が原因となる病気です。一度なってしまうと後遺症が残存し介護が必要となったり、場合によっては大事な命に関わります。

脳卒中予防の10因子：①高血圧 ②糖尿病 ③不整脈 ④タバコ ⑤アルコール ⑥コレステロール ⑦塩分、脂肪 ⑧運動不足 ⑨太りすぎ ⑩発症したらすぐ病院へ。  
脳梗塞にならない様、予防に努めることがより重要です。